

2026年9月18日

## ミサワホーム社員1名が今年度も選任 第68次南極地域観測隊に参加

- ミサワホームグループからの参加隊員は延べ32名、第50次観測隊から19期連続の参加
- 今回選任された勝呂真彦は、第68次隊の越冬隊員として活動し、建築・土木を担当
- 2031年12月完成予定の「夏期隊員宿舎」の工事等に従事



夏期隊員宿舎 2026年2月時点 写真提供：国立極地研究所

ミサワホーム株式会社（代表取締役社長執行役員 作尾徹也）の社員1名は、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所（以下、極地研）の推薦を受け、文部科学省から第68次南極地域観測隊員に選任されました。1975年の第17次観測隊に初めて参加して以降、今回を含め、ミサワホームからの南極地域観測隊への参加隊員は延べ32名、第50次観測隊から19期連続の参加<sup>※1</sup>となります。

当社社員であり、本年7月より極地研に出向中の勝呂真彦（すぐろまさひこ）は、「設営系」の越冬隊員として参加し、建築・土木を担当します。2031年12月に完成予定の「夏期隊員宿舎」の工事などに従事する予定です。

南極地域観測事業は、国際協力のもと国が実施する事業の一つです。1956年以来、70年以上にわたって実施されています。日本の活動拠点となる昭和基地では、超高層物理学、気象学、雪氷学、生物学、地学など幅広い分野で観測活動が続けられています。今回観測隊に参加する勝呂は、これまでの業務経験をいかし、隊員の住生活向上に貢献します。

ミサワホームは、今後も専門技術を有する社員の派遣等を通じて、南極観測事業に協力していきます。

## ■ 隊員プロフィール

### ○ 勝呂真彦（すぐろまさひこ）

2000年に株式会社ミサワホーム静岡へキャリア入社。約13年間、現場管理者として従事した後、AM（アフターメンテナンス）課に転属。AM課では、建物引き渡し後の定期点検や修繕対応、住まいの品質と安全の維持を担当。これまでの経験をいかし南極の建物の修理や補修にも貢献できると考え、第68次南極地域観測隊への参加を志願。

### ○ 勝呂本人のコメント

「南極という新しい環境でのスタートは、すべてが新しい挑戦です。少々不安もありますが、それ以上に『これからどのような新しい景色に出会えるのか』という期待に胸が膨らみます。変化を楽しみながら、自分らしく全力で駆け抜けます！」



ユキドリをイメージした  
勝呂隊員のキャラクター

## ■ 第68次南極地域観測隊について

観測隊には、夏期の2か月間滞在する夏隊員と、一年以上にわたり滞在する越冬隊員で構成されています。さらに、それぞれの隊員は、研究観測や定常観測などを担当する「観測系」隊員と、基地の設備や生活の維持を担当する「設営系」隊員に分かれます。このたび選任された勝呂は、越冬隊員の「設営系」として活動します。11月下旬に他の隊員とともに日本を出発し、オーストラリアのフリーマントルから南極観測船「しらせ」で昭和基地に向かい、年内の到着を予定しています。現地での活動後、2028年3月に帰国予定です。

## ■ 南極とミサワホーム

ミサワホームは1968年の「第10居住棟」以降、南極地域観測隊の活動や生活を支える建物を受注し、その実績は累計37棟・延床面積約6,700m<sup>2</sup>※2に及びます。当社が納入した建物の多くに採用されている木質接着複合パネルは、徹底した品質管理体制の下、外装、断熱材、内装があらかじめ工場で取り付けて生産されます。そのため、建築経験のない隊員が半数以上を占めるなかでも、短い夏の期間に容易に組み建てることができ、かつ厳しい南極の気候に耐え抜く高い性能を備えているのが特長です。

2026年6月には、極地建築の持続可能性を検証するため、国土舘大学（学長 田原淳子）と、ミサワホームグループのシンクタンクである株式会社ミサワホーム総合研究所（代表取締役社長 千原勝幸）が共同で、「昭和基地地学棟木質パネルの耐久性に関する研究※3」を実施しました。同研究では国土舘大学の小久保彰准教授が研究代表者を務め、昭和基地で46年間運用された「地学棟」の木質接着複合パネルの耐久性を調査しました。調査の結果、極限環境下においても、高い耐久性を保持していることが実証され、ミサワホームが培ってきた木質パネル技術の信頼性を改めて科学的に裏付けるものとなりました。

昭和基地の過酷な環境下で培われてきた技術やノウハウは、国内の住まいづくりにもいかされています。たとえば、南極の居住棟に用いられているものと同じ、120mm厚の木質接着複合パネルを採用した「センチュリーモノコック構法」を2017年に商品化し、全国（沖縄を除く）で展開しています。

また、こうした技術の応用に加え、次世代を担う子どもたちへの教育支援にも力を入れており、2011年からは全国の学校生活協同組合や教育関連団体と連携し、極地研の協力を得て教育支援プログラム「南極クラス※4」を開催。南極地域観測隊に参加した社員らが講師となり小中学校を中心に授業を行い、南極の世界を身近に感じてもらうとともに、将来の夢や希望をもつこと、互いに支え合いながらミッションを達成していく大切さを伝えています。初開催から約15年を経て、2026年8月末時点では2,805件の講演を実施し、27万人を超える子どもたちが参加しました。



「地学棟」高床式木質パネル構造  
写真提供：国立極地研究所

- ※1 国立極地研究所へ出向のうえ参加
- ※2 2026年4月末時点での実績。現在建設中の夏期隊員宿舎を含む
- ※3 極地研の「令和7年度 一般共同研究」に採択され、その枠組みを活用し、極地建築の持続可能性を検証するもの
- ※4 南極クラス <https://www.misawa.co.jp/nankyoku/antarctic-class/>

#### 関連ニュースリリース

- (2025年2月27日) [教育支援プログラム「南極クラス」、全国47都道府県での開催を達成](#)
- (2025年6月30日) [「南極観測パートナー認定企業」として初の合同帰国報告会を開催](#)
- (2026年1月22日) [ミサワホーム・ミサワホーム総合研究所・YKK・カンボウプラスによる  
技術開発 JAXA の「Moon to Mars Innovation」に採択内定され  
月面拠点の構築に資する空間連結技術の確立を目指す](#)
- (2026年6月4日) [「国土舘大学とミサワホーム総合研究所による共同研究  
南極・昭和基地「地学棟」極限環境下での46年間の運用を経て、  
木質接着複合パネルの高い耐久性を実証」](#)

以上

＊この件に関する問い合わせ先＊

ミサワホーム(株) 管理本部 広報・渉外部 コーポレートコミュニケーション課 有川太郎 平賀理絵子  
TEL : 03-3349-8088 / FAX : 03-5381-7838 / E-mail : koho@home.misawa.co.jp

未来をまちづくり **PLT** Group

プライム ライフ テクノロジーズグループは、パナソニック ホームズ、トヨタホーム、ミサワホーム、パナソニック建設エンジニアリング、松村組を事業会社として「未来をまちづくり PLT」をコーポレートメッセージに掲げ、社会課題と顧客課題の解決に取り組んでいます。

※プライム ライフ テクノロジーズ(株)は、2020年1月にパナソニックとトヨタ自動車が発立し、三井物産を加えた3社を株主とする会社です。